

仕組預金



デリバティブを組み込んだ預金商品の総称。銀行を中心に積極的に販売されている。普通の定期預金と投資型商品の間にある金融商品と言え、金融機関は仕組みを組み込んで普通の定期預金よりも高い金利を提供する一方で、元本割れリスクを始めとした各種リスクを負うことになる。

スキーム 銀行は買い取った権利を市場で1.8%よりも高い値段で転売し、利鞘を稼ぐ <pre>graph LR; A[投資家] -- "5年後に2%の金利を支払う権利" --> B[銀行]; B -- "5年間1.8%の金利を受け取る権利" --> A;</pre>	概要 仕組預金は主に銀行などで取り扱っており、デリバティブを使い銀行に有利な特約を付ける代わりに金利を上乗せされた定期預金のことを言う。一般的な定期預金ならば預入れ時点で決まっているはずの「預入期間」「金利（利息）」「通貨の種類」が、仕組預金では全てが約束されるわけではない。つまり、途中で預入期間や、満期時の受取通貨が変わる可能性がある。 預金者はその不確実性と引換えに、高い金利が得られる。また、満期日前に解約した場合、定期預金では利息を失っても元本は保証されるのが一般的ですが、仕組預金は原則中途解約ができない。たとえ解約できたとしても、ペナルティがあるため元本割れする可能性が高くなる。
種類 ●満期特約型仕組預金（コーラブル預金） 預金の満期について特約（仕組）が付与されている預金で、預金者は高金利を享受できる。その一方で、金融機関が「満期の選択権」を持ち、最大満期を設定した上で、金融機関の判断で満期が繰り上げられることがある。このタイプでは、満期まで持てば元本割れはないが、預入期間の変動というリスクがある。 ●元本通貨変動型仕組預金 元本通貨の変動という特約（仕組）が付与されている預金で、預金者は高金利を享受できる。その一方で、金融機関が「元本通貨の変動の選択権」を持っているため、預金者にとっては、為替相場などの動向により、当初預けている通貨が別の通貨に切り替わって償還されるリスクがある。この場合、受け取り通貨が外貨に変われば、預金保険の対象外となる。	特徴 ①同じ期間の普通の定期預金とくらべて、最終的に高金利を得られる可能性がある ②円で償還される仕組み預金は、預金保険の対象である デメリット/リスク ①原則、満期まで中途解約をすることができない ②金融機関側がやむを得ないものと認めて中途解約に応じても、ペナルティが発生するため、元本割れとなる可能性が非常に高い ③商品によっては、中途解約しなくても元本割れするものもある ④組み込んだ「仕組」により、満期日が繰り上がったたり、外貨で償還されたりするリスクがある。